

# 田舎暮らしを楽しむ

(16)

佐藤 彰啓



土間など、昔の農家の機能を生かす

「昔からの農家のよさを住まいに生かしました」。昨年、横浜市から八ヶ岳に移り住んだ宮地威(64)純子(59)夫妻の住まいは、玄関先が土間になっている(左写真)。この住宅は、田舎暮らしの住まいとして様々な工夫がされている。

▼食品庫を設ける

田舎暮らしは、都会のように毎日買い物に行く生活でなく、食材をまとめ買いしストックする生活。また自家菜園で収穫した野菜や漬物、ジャムや味噌(みそ)などの貯蔵スペースを確保することが豊かな食生活

## 農具・食品庫を充実させて

### 家の手当て(4)

につながる。専用冷凍庫も置ける食品庫が、庭の菜園とキッチンを結ぶ動線上にあるとたいへん便利。宮地さん宅では土間の左手が勝手口で、内部が食品庫、そしてキッチンへとつながっている。土間では雨の日も野菜の下処理や漬物を作ることができる。昔の農家の土間や味噌蔵の機能を現代に生かしたのである。

#### ▼近隣との交流機能も

近所の人々との自然な交流ができる住まいの形態が求められる

。田舎ではガーデニングや菜園で土に親しむ機会は多い。そうしたとき、腰を掛けてお茶が飲める昔の農家の縁側のようなものがあれば、住居の中に入らなくても、近所の人と気軽に話ができて、新しいコミュニケーションが生まれる。宮地さん宅の土間は、庭を眺めながらの接客スペースにもなっている。

#### ▼農具庫や外流し必要

家庭菜園をしている宮地さんは、住宅の一部にクワやスコップ、小型耕運機などの農具類を収納する場所も設けている。こうした庭仕事のための用具スペースや農具庫は必要である。別棟の小さな納屋を造り、一部を土間にして雨の時も木工などの作業ができるようにするのもよい。収穫物や作業後の手足を洗う外流しなども、計画に盛り込むことが大切である。

田舎暮らしはシンプル生活でありたい。無駄なものは排除し、必要なもので暮らす。しかし、田舎ならではの農具類の収納や食品の貯蔵など都会と違う部分を充実させることが、田舎暮らしを快適にするのである。

(ふるさと情報館代表)